貫井の風

令和２年度１０月号
ＮＯ．７
練馬区立貫井中学校　学校だより

真のチームプレー

校長　桐野　和之

皆さんは学級の係活動やサッカー・野球・バスケットボールその他など、部活動のチームで頑張っている人がたくさんいると思います。どのようにすれば、係やチーム、その部がもっと良くなるのか、強くなれるのか。また、逆にどうもチームがよくまとまらない。バラバラな感じがする。みんなが自分勝手にやっているような気がする。このようなことを感じたり、経験したりしたことがあるのではないでしょうか。そのようなときに、問題や課題を解決するためにヒントとなる言葉を紹介したいと思います。元ラグビー日本代表の松尾雄治選手の「一人ひとりが自分の仕事をきちんとこなすこと。この個人プレーの連携が、真のチームプレーなのだ」です。ラグビーと言うと、二〇一五年にイギリスで行われたラグビーワールドカップで、日本が優勝候補の南アフリカ共和国に勝利したことや、昨年、二〇一九年に日本で開催されたワールドカップで日本代表がベスト八に進出したことを知っている人も多いと思います。

ラグビーは楕円形の細長いボールを使って、体の大きな頑丈な選手や小さな選手がいろいろと入り混じり、手でパスをしながら、相手の陣地に攻め込んでいく競技です。

松尾選手が活躍したころ、ラグビーに関心がある人はあまり多くなく、時々テレビで放映される程度でした。松尾選手は、お父さんがラグビーをやっていたこともあり、小学生のころからラグビーを始め、中学校、高校、大学と続けました。卒業後は、新日鉄釜石という会社に入社し、一九七九年から選手、キャプテン、監督兼選手として、日本選手権七連覇達成という大記録を打ち立てた原動力となった人です。

ラグビーは、一五人の選手がチームプレーで一つのボールを相手の陣地まで持っていくスポーツです。自分のチームのボールを持っている人の動き・判断も重要ですが、相手の選手に邪魔されないように走ってボールを受けるかが、とても大切になります。その時に必要なのは、自分のやるべきことはどういうことなのか、今できる自分の仕事は何なのかを考えて行動すること。それには、相手の選手が来ないようにする場合もあります。また、受け取ったボールを相手の選手がいないほうの味方にパスすること。自分でボールを持って走ること。それを自分のチームの選手と気持ちを一つにして、とにかく、ボールを相手の陣地にどう持っていくことができるかです。

自分のチームが勝つためには、一人一人の選手が、自分のできることをきちんと行うこと。そして、この一人一人のプレーがつながった時に、本当のチームとしての強さが出るのだと思います。この気持ちがあったからこそ、新日鉄釜石というチームは七年間も日本選手権を連続して勝ち取ったのだと思います。

皆さんも、学級の係や学校の委員会、部活動などでいろいろな人と協力して仕事をすることがあると思います。その時に一人ひとりが自分で考えて、今自分でやらなければならない自分の仕事をきちんと行うこと。それが係やチーム全体の力をつけていい仕事が出来たり、チームが強くなったりする秘訣のようです。

ぜひ、松尾選手の言葉「一人ひとりが自分の仕事をきちんとこなすこと。この個人プレーの連携が、真のチームプレーなのだ」を思い出して行動してみてください。

天声人語（朝日新聞）

「全然大丈夫」という言葉を初めて耳にしたのは20年ほど前だったか。その衝撃を今も覚えている。え、全然は「全然知らない」など否定につく言葉じゃないの。日本語の乱れここに極まれり。でも肯定で使ってみると面白みも感じた。

すっかり定着した全然大丈夫だが、必ずしも誤用とは言えないらしい。言語学者加藤重広さんの『日本人も悩む日本語』によると「全然＋肯定」の用法は江戸時代から見られ、明治になっても珍しくなかった。

漱石の『坊ちゃん』にも「全然悪(わ)るいです」の台詞(せりふ)が出てくる。いつの間にか「全然＋否定」が主流になったようで、何が乱れなのか分からなくなる。そう考えると、この意識調査も興味深い。国語の乱れを感じる人がだんだん減っているという。

文化庁によると「今の国語は乱れている」と思う人は20年前は85％だったが、直近は66％である。言葉は変化し続けており、むしろ人々の受け入れ幅が広くなっているのだろう。

言葉は世につれ、である。「ブラック企業」は暴力団関連企業を指す隠語だったが、「若者を酷使する企業」として使われるようになり、問題企業を告発する運動につながった。一方で人種差別の観点から、ブラックを否定的に使うべきでないとの議論も出ている。

「全然＋肯定」に戻ると、今の使い方は配慮の意味もあるらしい。「私の料理おいしくないでしょ」に対して「全然おいしい」と言えば、優しさがにじむ。言葉は、人と人とのつながりも映し出す。

「今、卒業生は」～シリーズ②～

令和元年度男子卒業生

こんにちは。今回は僕の受験のことや高校生活について話したいと思います。

まず、僕が進路選択のときに考えていたことです。僕は中学２年生の頃から行きたい高校が決まっていて、そこに合わせて勉強をしていました。しかし、中３の夏休みの後、10月頃に成績にのび悩んでいました。1学期は一つ下の高校に行くことも考えましたが、その時に志望校のままいくことができたのが2学期の成績です。その時は模試が伸び悩んでいたため内申点を上げることを考えていました。その結果、内申点のおかげもあり、推薦入試で受かることができました。受験勉強も大事ですが、内申点を上げることも都立入試には大切なことだと思います。

今、僕は高校生活を楽しめています。最初は勉強など不安な要素はたくさんありましたが、皆さんが思っているように身構えしなくても大丈夫だと思います。必要なことは基礎を固めることです。僕は苦手な英語を頑張っています。まさしく基礎の応用が必要なため、中学生の時にもっと頑張っておけばと少し後悔をしています。

最後に、受験で大切なことを二つ言いたいと思います。

一つは日常の勉強を頑張ること。受験勉強だけをすればいい訳ではなく、学校の勉強一つ一つも受験に繋がります。

そして二つ目は、諦めないことです。もし今、第一志望を諦めようか悩んでいたらまだ早いです。2学期の成績や今後の自分の努力次第ではなんとでもなります。入試は早く

てあと5か月、または半年あります。まだ頑張れる時期なので決して諦めないでください。
　長くなりましたが、皆さんが第一志望の高校に受かることを願っています。最後の最後まで努力することを大切にしてください。

工夫をした新しい取組

　２月から今日に至るまで、コロナ禍にいろいろと振り回されながらの学校生活が続いています。６月から分散、段階的な授業再開を経ての平常スタイルの学校生活が続いています。もちろん学校の一面だけを見ればという但し書きがつきます。その理由は、修学旅行やスキー移動教室、運動会や校外学習、合唱コンクール等が中止、延期の憂き目に遭っていること。現状の感染状況を踏まえながら、日々、練馬区教育委員会と連絡や連携を図り、さまざまなことの実施等については検討や工夫をしながらの取組が続いています。
　柔道部では９月２０日（日）都内のいくつかの学校が本校に集まり、練習試合会を実施しました。その実施にあたっては厳重な検査や準備、各校の顧問同士の打ち合わせをしての実施でした。印象に残ったのは、単なる手指のアルコール消毒だけでなく、トイレ等を利用した際には足の裏まで消毒をすること。そして、試合以外の時はすべての生徒がマスクを着用する。また、選手が集合する際にも常に距離を意識した配慮を生徒と先生で行っていたことでした。
　剣道では、練馬区内の３年生の交流試合が９月２７日（日）に貫井中で実施され、本校の生徒たちも参加しました。１２校の選手が集まり、ウォーミングアップも面などの防具を着けずに実施しました。また、開閉会式はありませんでした。さらに、実際の試合では、マスクをして面を着けるという徹底ぶり。これは都中体連剣道競技部のガイドラインに則ったものです。
　柔道や剣道では、試合の実施にあたって何日も前からの健康状況を確認し、試合に参加するにあたり家庭から同意書を提出してもらいました。当たり前のことなのですが。
吹奏楽部は９月２９日（火）３０日（水）、１０月１日（木）と校内の演奏会を昼休みに体育館で行いました。

　吹奏楽部は夏の都のコンクール出場機会、貫井町会の敬老会、スポーツ大会での演奏のチャンスを今年度は失いました。特に３年生にとっては、長い期間、今まで練習等で重ねてきた努力の成果を全く発揮できないまま時を過ごしてきました。その機会を少しでも創ろうという部顧問の配慮から実施されました。短時間での演奏会、鑑賞する生徒や保護者は予め申込制とする。人数が多い場合には日を分散して実施する等の工夫をしたために、３日間での実施となりました。吹奏楽部の生徒にとっては短時間でしたが、その発表の成果を現時点で持っている力を十分に発揮した素晴らしい演奏だったと思います。地域の方々や、近隣小学校の児童たちにも鑑賞させたいなと思ったぐらいです。
　このように今学校では、これまでにない配慮や工夫を凝らしながら諸々の活動を行っています。部活動に限らず、健康カードを活用した日々の検温、体調チェックと確認。家庭との連絡や合意形成。かつての学校ではなかった感染症防止対策、健康管理と配慮、工夫が続いています。この今の体制やしくみに我々教職員も生徒も、そして保護者の方々も慣れていくしかないのだと思っているこの頃です。

誌上公開授業

１０月２日（金）の１校時、２年生の道徳授業を参観しました。
主題名は『お母さん、ぼくが生まれて　ごめんなさい』。
いつもは教科書の題材を活用して授業を行います。しかし、今日は、指導項目Ｂ、主として人との関わりに関すること［思いやり、感謝］を扱う特別の資料を用いての授業。
学年では道徳授業を一定期間、ローテーションで行うシステムを作り、担任の先生以外の他クラスの担任や副担任が授業を行う場合があります。このような方法でいろいろな先生が生徒に関わります。
さて、今日の授業では重度の脳性マヒで全身が不自由だった方（やっちゃん）が１５歳という若さで早世したようすを扱った本が要約された資料を用いていました。（本は、産経新聞社の『お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい』著者　向野　幾世）
先生が資料を読み、解説しながら授業は進みました。資料の一部を紹介します。
・・お母さん（京子さん）は、「とんでもない運命をこの子に背負わせてしまった」とショックのあまり目の前が一瞬真っ暗になりました。医師から「脳性マヒ」と告げられ、京子さんは「泣くものか」「泣くものか」と言い聞かせながらやっちゃんをおぶって帰りましたが、何も知らずにスヤスヤと眠っているやっちゃんを見ていると、涙がとめどもなくあふれてくるのでした。・・
私は、やっちゃんが詩の中で教えてくれる「やさしさこそが大切で、悲しさこそが美しい、そんな人の生き方に」に深い共感を覚えます。ここで言われている「悲しみ」は、たぶん、人間がうめき、苦しむことではないかと思います。
人間が生きていく上で、やさしさを大切にしながら、うめき、苦しんでいることこそ、一番美しいのだ、と言っているように考えます。人のぬくもりの中で一五のいのちを生きたやっちゃんの心の結晶を見る思いがします。
詩の一部
ありがとう　おかあさん　おかあさんがそこにいる限り　脳性マヒをいきていきます
ありがとう　私の息子よ　あなたの姿を見守って　おかあさんも生きていきます　・・
いつもは生徒同士が対話をしたり、意見交換をしたりすることで自分の考えを深めていく機会が多い道徳の授業ですが、今日の授業では一人ひとりが自己と向き合い「自問自答」する事が多く設けられ、ワークシートには以下の問いかけがありました。

①『お母さん、ぼくが生まれてごめんなさい』あなたはこの言葉をどのように感じましたか。
②『優しさこそが大切で、悲しさこそが美しい。そんな人の生き方』という言葉をどのように受け止めましたか。
③『自分の命といえども決して自分一人のものではない』よく言われることですが、あなたはこの言葉をどう感じますか。
授業の最後に先生が生徒たちに問いかけた事で印象に残ったことがあります。それは、何のために部活動に取り組んでいるの。「試合に勝つため」と応えた生徒に「そうだね」と応えながら、道徳の授業は「ワークシートに自分の答えを書くために学習しているんじゃないよね」と伝えていたことです。